

# ぎふ歴史的土壌改良施設マップ



### ★山口頭首工

【所在地】本郷市山口  
【築造】不明  
【管理】本郷市土地改良区

◆「火柱伝説」を伝える清らかな用水◆  
室町時代の大洪水により糸貫川から根尾川へ本流が代わり、糸貫川へ水を供給するための「井天堰（山口頭）」を設けたのがはじまりです。  
本頭首工を取水口とする席田用水・真桑用水は、中世以降の水配分では双方の激しい争いが絶えませんでした。この争いを江戸幕府は深刻に受け止め、現地の支配領主（戸田左兵衛、松平丹次郎）に決着を命じ、寛永17年（1640年）に「井天堰」を築き、真桑分水の時間配水を決定しました。  
現在はこの配分にしたがい、本郷市、岐阜市、北方町、大野町の農地に清流を運んでいます。  
また、地域では意匠を祈る「米がし祭り」などの伝統を今に伝えるほか、ホテルの保全活動にも取り組まれています。

### ★小淵ため池

【所在地】可児市久々利下入会  
【築造】昭和27年（1952年）  
【管理】可児川防災等ため池組合

◆農地とくらしを守る可児川防災ダム◆  
久々利川の上流に、耕地の水害や干ばつ被害の防止を目的として整備されたこの池は、堤体の材料に、砂利、土を用いた日本で最初のロックフィルダムです。  
当時、国内での先例がなかったから、戦後もない時期であったにもかかわらず、海外より工法を取り寄せるなどし、先人の熱意と創意により築造されました。  
昭和27年に完成し、築造後約70年が経過した今も、ロック材で作られた堤体の圧縮の表情を見ており、ため池の上を遊ぶ東海環状自動車道が水面に映えるなど、美しい水の空間を形成しています。

### ★各務用水

【所在地】岐阜市、各務原市、関市  
【築造】明治21年（1888年）  
【管理】各務原市土地改良区

◆100年の歴史と、建設への多くの人の苦勞◆  
当時の農業は天とわずかなため池に依存していましたが、明治16年の大干ばつをきっかけに、時の大宮村（現各務原市）の村長長山三郎と芥見村（現岐阜市）の下野基助らが中心となり、長良川から都市近郊の水田地帯まで約20kmの各務用水路を建設しました。  
現在も約580haの農地を潤すとともに、水路上に設置した「芥見大船 太陽光発電所」により土地改良区の使用電力の一部を自然エネルギーで自給しています。

### ★さかおりなだ

【所在地】恵那市野方町折新  
【築造】昭和21年（1946年）  
【管理】NPO 恵那市坂折棚田保存会

◆棚田集団「集積」が築いた石積棚田◆  
江戸時代に築いたといわれる日本の代表的な石積棚田であり、400年の歴史を誇ります。戦国期の土佐集団「集積（くむくむ）」が築いた石積もよく見られます。石垣の中に鳥居のように石を組んだ欄干は「清水」と呼ばれ、地域の伏流水や上流の棚田から落ちる水を集めて、かんがい用水として海利用するための仕組みとなっています。毎年6月、1土曜日に「田の神様火祭」が開催され、棚田の畔に約2000本のロウソクが灯されるとともに、堤防沿いが棚田を眺め歩き、幻想的な情景を演出します。また、「築山子コンクリート」プロジェクト「棚田コンサート」や、地域一体となって「棚田を資源とした集積」により実現しており、将来にわたって棚田を守り続けるための取組みが行われています。

### ★高須輪中

【所在地】海津市海津町・平田町  
【築造】元禄2年（1685年）  
【管理】海津市・高須輪中土地改良区

◆輪中農業300年の歴史を伝える◆  
「高須」は、もと「高洲」と称せられ、現在の木曾川と揖斐川の間にできた洲の一つでした。河川に囲まれた洲では、幾度もの洪水を経験し集落と農地を守るため、堤防（輪中）を築きました。  
江戸時代中期（1671）には、現在の姿の大輪中が完成し、この間335年の歳月を費しました。  
こうした歴史を経てきた「高須輪中」は現在、岐阜県最大級の穀倉地帯となっており、当時のくらしは、最南端の「国営木曽三川公園」に再現された施設にて垣見られるのみとなりました。

### ★恵那峡大橋

【所在地】中津川市堀川  
【築造】昭和52年（1977年）  
【管理】中津川市

◆景観「恵那峡」の空を彩るアーチ橋◆  
中津川市堀川から堀川をたどる、1505号にせよ橋の長193mの橋梁であり、昭和50年に着工し昭和52年に完成しました。  
恵那峡大橋の下流には、水力発電の副産物と言われる福澤浄水があり、現在の姿の大輪中が完成し、この間335年の歳月を費しました。  
こうした歴史を経てきた「高須輪中」は現在、岐阜県最大級の穀倉地帯となっており、当時のくらしは、最南端の「国営木曽三川公園」に再現された施設にて垣見られるのみとなりました。

### ★西濃用水（岡島頭首工）

【所在地】揖斐県上野市・三輪  
【築造】昭和51年（1976年）  
【管理】西濃用水土地改良区連合

◆西濃地域の農業生産と農業経営を支える用水◆  
江戸時代初期の元禄4年（1691）頃、揖斐用水は、取水口を恵那村（現揖斐町）の伊賀川（現揖斐川）の河原に設け、地域の水不足をかねて解決する池田村井水と呼ばれていました。当時、干天時には下流まで水が届かず争いの種となり、江戸評定所（現東京）まで行って争ったこともありましたが、昭和に入ってから、これらに関連する取水口は岡島頭首工に統合され、水を争いにくくすることができました。  
現在は、揖斐川を跨ぐ道路橋も兼ねており、壮大な景観を作り出すとともに、農業用水の基幹施設として5,342haの受益農地を潤し、地域の農業を支えています。

### ★瀬戸川用水

【所在地】飛騨市吉川町  
【築造】大正13年（1924年）  
【管理】飛騨市基金整備部建設課

◆歴史ある街並みと調和する、壁が泳ぐ瀬戸川用水◆  
天正13年（1585）戦国武将金森近兵衛、飛騨国主となり城下町の形成に力を注いでいました。飛騨市吉川町は、飛騨城を中心と築かれました。瀬戸川用水は、飛騨城のお水の余り水を引いて開墾されるために築造されたことから「瀬戸川」と呼ばれるようになりました。  
瀬戸川は800年ほどにわたって築き上げられた歴史は、歴史的な街並みと調和する景観を演出しており、瀬戸川を泳ぐ千匹の鯉とともに、訪れる多くの人の心を癒してくれています。

### ★菅代用水

【所在地】関市、美濃市  
【築造】寛文7年（1667年）～寛文9年（1669年）

◆民間人により幾度の困難を乗り越えて開墾された用水路◆  
江戸時代初期の寛文3年（1663）頃、美濃市の菅代右衛門 戸と弟の林勘次郎が水不足を兼ね、地元の豪族の伊賀兵衛と話し、長良川から水を引く計画を立てました。三氏は私財の全てを投じた。10年の歳月を経て水路を完成させました。  
約350年が経過した現在も、地域の農業を支える重要な施設であり、毎年5月1日には三氏の功績をたたえる例大祭が行われています。  
本用水は、平成27年12月に世界農業遺産に登録された「清流長良川」の景観を構成する一部となっています。  
また、水きりむらぎの農業発展に貢献していることが評価され、平成27年10月に岐阜県初の「世界かんがい施設遺産」に登録されました。

### ★種蔵棚田

【所在地】飛騨市宮川町種蔵  
【築造】昭和2年（1946年）  
【管理】種蔵棚田

◆地域住民自らの努力で勝ち取った棚田◆  
種蔵地区は800年以上の歴史がありますが、谷が深く最低限の水しか確保できませんでした。昭和2年に農業用水と棚田の造成が行われました。  
石垣は石の指挿しによる堅固な構築され、棚田が映し出す景色、種蔵地区住民の棚田に対する強い思いを伝えています。  
池田村井水と呼ばれていました。当時、干天時には下流まで水が届かず争いの種となり、江戸評定所（現東京）まで行って争ったこともありましたが、昭和に入ってから、これらに関連する取水口は岡島頭首工に統合され、水を争いにくくすることができました。  
現在は、揖斐川を跨ぐ道路橋も兼ねており、壮大な景観を作り出すとともに、農業用水の基幹施設として5,342haの受益農地を潤し、地域の農業を支えています。

### ★池寺池

【所在地】岐阜市  
【築造】大正13年（1924年）

◆市民により幾度の困難を乗り越えて開墾された用水路◆  
江戸時代初期の寛文3年（1663）頃、美濃市の菅代右衛門 戸と弟の林勘次郎が水不足を兼ね、地元の豪族の伊賀兵衛と話し、長良川から水を引く計画を立てました。三氏は私財の全てを投じた。10年の歳月を経て水路を完成させました。  
約350年が経過した現在も、地域の農業を支える重要な施設であり、毎年5月1日には三氏の功績をたたえる例大祭が行われています。  
本用水は、平成27年12月に世界農業遺産に登録された「清流長良川」の景観を構成する一部となっています。  
また、水きりむらぎの農業発展に貢献していることが評価され、平成27年10月に岐阜県初の「世界かんがい施設遺産」に登録されました。

### ★種蔵棚田

【所在地】飛騨市宮川町種蔵  
【築造】昭和2年（1946年）  
【管理】種蔵棚田

◆地域住民自らの努力で勝ち取った棚田◆  
種蔵地区は800年以上の歴史がありますが、谷が深く最低限の水しか確保できませんでした。昭和2年に農業用水と棚田の造成が行われました。  
石垣は石の指挿しによる堅固な構築され、棚田が映し出す景色、種蔵地区住民の棚田に対する強い思いを伝えています。  
池田村井水と呼ばれていました。当時、干天時には下流まで水が届かず争いの種となり、江戸評定所（現東京）まで行って争ったこともありましたが、昭和に入ってから、これらに関連する取水口は岡島頭首工に統合され、水を争いにくくすることができました。  
現在は、揖斐川を跨ぐ道路橋も兼ねており、壮大な景観を作り出すとともに、農業用水の基幹施設として5,342haの受益農地を潤し、地域の農業を支えています。

### ★池寺池

【所在地】岐阜市  
【築造】大正13年（1924年）

◆市民により幾度の困難を乗り越えて開墾された用水路◆  
江戸時代初期の寛文3年（1663）頃、美濃市の菅代右衛門 戸と弟の林勘次郎が水不足を兼ね、地元の豪族の伊賀兵衛と話し、長良川から水を引く計画を立てました。三氏は私財の全てを投じた。10年の歳月を経て水路を完成させました。  
約350年が経過した現在も、地域の農業を支える重要な施設であり、毎年5月1日には三氏の功績をたたえる例大祭が行われています。  
本用水は、平成27年12月に世界農業遺産に登録された「清流長良川」の景観を構成する一部となっています。  
また、水きりむらぎの農業発展に貢献していることが評価され、平成27年10月に岐阜県初の「世界かんがい施設遺産」に登録されました。

### ★種蔵棚田

【所在地】飛騨市宮川町種蔵  
【築造】昭和2年（1946年）  
【管理】種蔵棚田

◆地域住民自らの努力で勝ち取った棚田◆  
種蔵地区は800年以上の歴史がありますが、谷が深く最低限の水しか確保できませんでした。昭和2年に農業用水と棚田の造成が行われました。  
石垣は石の指挿しによる堅固な構築され、棚田が映し出す景色、種蔵地区住民の棚田に対する強い思いを伝えています。  
池田村井水と呼ばれていました。当時、干天時には下流まで水が届かず争いの種となり、江戸評定所（現東京）まで行って争ったこともありましたが、昭和に入ってから、これらに関連する取水口は岡島頭首工に統合され、水を争いにくくすることができました。  
現在は、揖斐川を跨ぐ道路橋も兼ねており、壮大な景観を作り出すとともに、農業用水の基幹施設として5,342haの受益農地を潤し、地域の農業を支えています。

### ★池寺池

【所在地】岐阜市  
【築造】大正13年（1924年）

◆市民により幾度の困難を乗り越えて開墾された用水路◆  
江戸時代初期の寛文3年（1663）頃、美濃市の菅代右衛門 戸と弟の林勘次郎が水不足を兼ね、地元の豪族の伊賀兵衛と話し、長良川から水を引く計画を立てました。三氏は私財の全てを投じた。10年の歳月を経て水路を完成させました。  
約350年が経過した現在も、地域の農業を支える重要な施設であり、毎年5月1日には三氏の功績をたたえる例大祭が行われています。  
本用水は、平成27年12月に世界農業遺産に登録された「清流長良川」の景観を構成する一部となっています。  
また、水きりむらぎの農業発展に貢献していることが評価され、平成27年10月に岐阜県初の「世界かんがい施設遺産」に登録されました。

### ★種蔵棚田

【所在地】飛騨市宮川町種蔵  
【築造】昭和2年（1946年）  
【管理】種蔵棚田

◆地域住民自らの努力で勝ち取った棚田◆  
種蔵地区は800年以上の歴史がありますが、谷が深く最低限の水しか確保できませんでした。昭和2年に農業用水と棚田の造成が行われました。  
石垣は石の指挿しによる堅固な構築され、棚田が映し出す景色、種蔵地区住民の棚田に対する強い思いを伝えています。  
池田村井水と呼ばれていました。当時、干天時には下流まで水が届かず争いの種となり、江戸評定所（現東京）まで行って争ったこともありましたが、昭和に入ってから、これらに関連する取水口は岡島頭首工に統合され、水を争いにくくすることができました。  
現在は、揖斐川を跨ぐ道路橋も兼ねており、壮大な景観を作り出すとともに、農業用水の基幹施設として5,342haの受益農地を潤し、地域の農業を支えています。

### ★池寺池

【所在地】岐阜市  
【築造】大正13年（1924年）

◆市民により幾度の困難を乗り越えて開墾された用水路◆  
江戸時代初期の寛文3年（1663）頃、美濃市の菅代右衛門 戸と弟の林勘次郎が水不足を兼ね、地元の豪族の伊賀兵衛と話し、長良川から水を引く計画を立てました。三氏は私財の全てを投じた。10年の歳月を経て水路を完成させました。  
約350年が経過した現在も、地域の農業を支える重要な施設であり、毎年5月1日には三氏の功績をたたえる例大祭が行われています。  
本用水は、平成27年12月に世界農業遺産に登録された「清流長良川」の景観を構成する一部となっています。  
また、水きりむらぎの農業発展に貢献していることが評価され、平成27年10月に岐阜県初の「世界かんがい施設遺産」に登録されました。

### ★種蔵棚田

【所在地】飛騨市宮川町種蔵  
【築造】昭和2年（1946年）  
【管理】種蔵棚田

◆地域住民自らの努力で勝ち取った棚田◆  
種蔵地区は800年以上の歴史がありますが、谷が深く最低限の水しか確保できませんでした。昭和2年に農業用水と棚田の造成が行われました。  
石垣は石の指挿しによる堅固な構築され、棚田が映し出す景色、種蔵地区住民の棚田に対する強い思いを伝えています。  
池田村井水と呼ばれていました。当時、干天時には下流まで水が届かず争いの種となり、江戸評定所（現東京）まで行って争ったこともありましたが、昭和に入ってから、これらに関連する取水口は岡島頭首工に統合され、水を争いにくくすることができました。  
現在は、揖斐川を跨ぐ道路橋も兼ねており、壮大な景観を作り出すとともに、農業用水の基幹施設として5,342haの受益農地を潤し、地域の農業を支えています。

### ★池寺池

【所在地】岐阜市  
【築造】大正13年（1924年）

◆市民により幾度の困難を乗り越えて開墾された用水路◆  
江戸時代初期の寛文3年（1663）頃、美濃市の菅代右衛門 戸と弟の林勘次郎が水不足を兼ね、地元の豪族の伊賀兵衛と話し、長良川から水を引く計画を立てました。三氏は私財の全てを投じた。10年の歳月を経て水路を完成させました。  
約350年が経過した現在も、地域の農業を支える重要な施設であり、毎年5月1日には三氏の功績をたたえる例大祭が行われています。  
本用水は、平成27年12月に世界農業遺産に登録された「清流長良川」の景観を構成する一部となっています。  
また、水きりむらぎの農業発展に貢献していることが評価され、平成27年10月に岐阜県初の「世界かんがい施設遺産」に登録されました。

### ★種蔵棚田

【所在地】飛騨市宮川町種蔵  
【築造】昭和2年（1946年）  
【管理】種蔵棚田

◆地域住民自らの努力で勝ち取った棚田◆  
種蔵地区は800年以上の歴史がありますが、谷が深く最低限の水しか確保できませんでした。昭和2年に農業用水と棚田の造成が行われました。  
石垣は石の指挿しによる堅固な構築され、棚田が映し出す景色、種蔵地区住民の棚田に対する強い思いを伝えています。  
池田村井水と呼ばれていました。当時、干天時には下流まで水が届かず争いの種となり、江戸評定所（現東京）まで行って争ったこともありましたが、昭和に入ってから、これらに関連する取水口は岡島頭首工に統合され、水を争いにくくすることができました。  
現在は、揖斐川を跨ぐ道路橋も兼ねており、壮大な景観を作り出すとともに、農業用水の基幹施設として5,342haの受益農地を潤し、地域の農業を支えています。

凡例

高速道路	新幹線	市庁界
有料道路	J R線	市役所
国道	私鉄線	町役所
主要地方道	県界	主要道路
普通道	市町村界	温泉（含む日帰り温泉）
広域農道		温泉の駅

※この図は、岐阜県土地改良区協会が作成したものであり、各土地改良区に所管する施設は、各土地改良区のホームページでご確認ください。